

# 会報 大ヶ谷戸こだなか

発行責任者 大ヶ谷戸小田中町会長 志村 勝  
 編集 町会広報部  
 印刷 中溝グラフィック 044(333)2787

## 平成19年度(7月~) 町会の今後の主な行事

- 7月 「大ヶ谷戸こだなか」発行
- 「(婦)選挙公報、白ばら配布
- 「(婦)盆踊り練習(2日)
- 「(子)NHK早朝ラジオ体操
- 8月 おおがやと納涼盆踊り大会
- 9月 関神社例大祭
- 「二部地区 美化運動
- 「(す)歩く会 絵手紙作り
- 「『敬老の日』お祝い表敬訪問
- 10月 中原区民祭
- 「役員研修視察
- 「(す)研修旅行、河川敷清掃
- 11月 関連町会合同防災訓練
- 「赤い羽根・共同募金協力
- 「(婦)共同募金街頭活動
- 「(婦)寄せ植え講習会
- 「(子)友達ラリー
- 「中原ふれあい祭り
- 「(す)歩く会
- 「スポーツ大会
- 「三部地区 美化運動
- 12月 (す)友愛訪問
- 「(子)第34回餅つき大会
- 「(子)野球部・クリスマス大会
- 「年末夜警巡回

## <平成20年>

- 1月 「大ヶ谷戸こだなか」発行
- 「役員新年研修会
- 「(子)作品展(書き初め・絵画)
- 「(子)凧揚げ大会(中子連主催)
- 「(す)手芸会
- 2月 (す)新年研修会 友愛訪問
- 3月 四部地区 美化運動
- 「(子)子ども夢パーク(津田山)
- 「(子)野球部・お別れ会
- 「(す)歩く会

※(婦) = 婦人部  
 (子) = 子ども会  
 (す) = すみれ会  
 ※(婦)「県のとより」「市政だより」  
 毎月配布  
 ※役員会は毎月第1木曜日に開催

### 通常総会

## 町会を拡充し新出発 近隣町会含め秋に防災訓練

平成19年度大ヶ谷戸小田中町会通常総会が、5月20日午前11時から町会館で開催されました。

席上、平成18年度の事業報告と収支決算報告があり、全員賛同を得て可決されました。次いで、平成19年度の事業計画と予算も質疑応答の後、採択されました。

と、旧日本鋼管(株)小田中住宅跡地に建つグランアルト武蔵新城の居住者が、同管理組合の総会を経て小田中町会加入を決定。本総会でも、全員賛同で加入を承認。なお、町会行事にもすすんで参加したい旨、理事長の山田利行氏より挨拶がありました(2面に関連記事)。

### 【承認された主な事項】

◎おおがやと納涼盆踊り大会  
 5町会合同のおおがやと納涼盆踊り大会が8月上旬、大ヶ谷戸小学校グラウンドで開催されます。

また、地震などの大規模災害時に当町会の避難所に指定されている川崎市立豊学校で近隣町会と共に防災訓練が11月に実施される予定です。



参加者の総会通常合協議を等画業事

◎町会館利用手続きが変更  
 本年度より、町会館の管理責任者の交替に伴い、利用手続きが変更になりました(※詳細は別紙掲載)。

防災、防犯、ゴミ問題など地域を取り巻く課題は、一人の力で解決できるものはないとあります。安心、安全の住みよい街にするには、近隣同士の協力が欠かせません。「人が地域をつくり、地域が人を支える」——みんなで郷土愛を育みつつ、安全で快適な生活環境を築いていきたいと思います。

(文責・岡村昇)

◎町会に新しい仲間!  
 現在の少子高齢化問題、防犯、防災、環境保全などの課題に地域と共に取り組みたい

本年度より、町会館の管理責任者の交替に伴い、利用手続きが変更になりました(※詳細は別紙掲載)。

防災、防犯、ゴミ問題など地域を取り巻く課題は、一人の力で解決できるものはないとあります。安心、安全の住みよい街にするには、近隣同士の協力が欠かせません。「人が地域をつくり、地域が人を支える」——みんなで郷土愛を育みつつ、安全で快適な生活環境を築いていきたいと思います。

(文責・岡村昇)

### 婦人部

町会館で今年度の婦人部総会を開催しました。その席で、多発している自転車盗難・空き巣・振り込め詐欺・ひったくり注意のチラシ(中原警察署・中原防犯協会発行)を配り、呼び掛けをお願いしました。

また、婦人部の活動として、特に力を入れることになったのが、ガーデニング教室(花いっぱい運動)で、全員一致で採択。これは美化運動の一環として催すもので、活動の目玉として、町内に花がいっぱいになり、癒しともなる花に触れることで、健康にも繋がると期待しています。アイディアとセンスを生かした寄せ植えなどを考えています。美しい国・日本ならぬ、美しい街・小田中町会を目指して皆さまのご参加をお待ちしています。



あしかがフラワーパークを見学する婦人部メンバー(栃木県足利市で)

### すみれ会

かねてから心配していたことですが、南武電業社前の無信号の横断歩道を渡る人が年々増えてきています。そこで、事故を未然に防ぐため、黒沼会長が発起人となり、すみれ会で又玄寺交差点と連動した信号機の設置を要望する署名運動を行いました。お陰さまで、町会の皆さんにもご協力いただき、2067名の署名が集まりました。

さっそく、川崎市議会の矢沢議長に陳情書を提出。その後、市民委員会が審議していたが、全会一致で信号機が設置されました。

また、4月2日、等々力緑地で、すみれ会恒例のお花見を楽しみ、5月10日、区老連演芸大会で、コーラスに出演し美声(?)を披露しました。

今年度も、親睦を図りつつ、みんなの力で安心して暮らせる街づくりをめざしていきい、と願っています。



花見で楽しむすみれ会メンバー(等々力緑地で)

### 町会長から一言

前年度より、グランアルト武蔵新城管理組合の当町会への加入要請を受けて、双方の協議を重ねてきましたが、過日の町会の総会をもって、正式に受け入れることが決定しました。

これからは、さまざまな地域行事や防災防犯などの取り組みを一緒に仲良く進めていきますので町会員の皆さまよろしくお願いたします。

さて、当町会にあってもさまざまな課題が出ています。今年度は、皆さまのご協力をいただきながら、さらに現実的な防災訓練、防災対策、環境にやさしい街づくりの推進などに取り組んでまいります。

先般、小田中町会館の隣接地にある、中原消防団・器具置き場に新たに小型ポンプ機が整備され、これにより、大ヶ谷戸班の地域の防火への取り組みが充実しました。

消防団の皆さまにはいつも懸念な地域防災に努力していただいていることに心から感謝申し上げます。なお、私たち地域の住民も一緒にスクラムを組んで安心安全な街づくりに努力していきましょう。



### 子ども会

平成19年度子ども会の総会を5月14日に開催しました。

新年度の行事計画・予算案に対し出席者全員の承諾を得、新年度の活動を開始しました。本年度は子ども会の活動をとおして「強く明るく子ども」となるよう、役員一同子どもたちのために頑張つてまいりますので、ご支援ご協力をお願いいたします。

### 盛況だった運動会

恒例の運動会も39回を迎え、今年も志村町会長、町会役員、大ヶ谷戸小学校の鈴木教頭先生ほか多数の来賓の参加をいただきました。

今年も晴天に恵まれ、参加者約230名と多数の参加の中で、来賓の皆さんも幾つかの競技に参加して

### 強く明るい子に!

に頑張つてまいりますので、ご支援ご協力をお願いいたします。

恒例の運動会も39回を迎え、今年も志村町会長、町会役員、大ヶ谷戸小学校の鈴木教頭先生ほか多数の来賓の参加をいただきました。

今年も晴天に恵まれ、参加者約230名と多数の参加の中で、来賓の皆さんも幾つかの競技に参加して



大人気だったパン喰い競争(大ヶ谷戸小学校で)

●役員もビックリでした●  
 今年で3回目でしたが、3月4日に子ども11人・役員3人で津田山の子どもの夢パークへ行ってきました。

当日は3月にしては暖かく、園内を自由に遊び回り、低学年の中には水遊びに興じ衣服を濡らす事態となり、アクシデントもありましたが、楽しい思い出になりました。

### マイタウン ハイライト

いたいただきました。なかでもパン喰い競争は子どもから大人までハッスル大会を盛り上げていただきました。

●役員もビックリでした●  
 今年で3回目でしたが、3月4日に子ども11人・役員3人で津田山の子どもの夢パークへ行ってきました。

当日は3月にしては暖かく、園内を自由に遊び回り、低学年の中には水遊びに興じ衣服を濡らす事態となり、アクシデントもありましたが、楽しい思い出になりました。

今年で3回目でしたが、3月4日に子ども11人・役員3人で津田山の子どもの夢パークへ行ってきました。

当日は3月にしては暖かく、園内を自由に遊び回り、低学年の中には水遊びに興じ衣服を濡らす事態となり、アクシデントもありましたが、楽しい思い出になりました。

# 清潔できれいな街づくりを!



快適な環境の中で生活することは、だれもが願っていることです。清潔できれいな街づくりの推進の一助として、当町会の話を紹介しましょう。

「この近所の底力」と題するNHKのテレビ番組が、各地で大きな関心を集めています。このテレビを見て、近隣同士の知恵、経験を集結すれば思いもかけないヒントや発想が生まれることを実感された方も多いことでしょう。当町会3部でも、平成17年6月、「この近所の底力」を生かし、散乱ごみの難問に挑戦しました。当時、南武沿線道路沿いの4カ所のごみ収集所が、不法投棄やネズミ公害のため地元住民の悩みのタネとなっていたのです。そこで、地元の代表が町会館に集い、その対策について協議しました。



「美化運動の日」(6月10日)。みんなできれいな街づくりを!



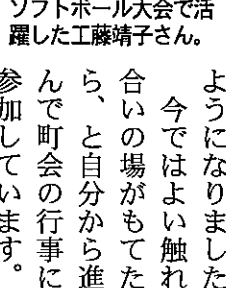
「まあ、きれいな!。毎春秋になるとJR中原電線区沿いに、約800メートルにわたりコスモスが咲き香り、歩行者を楽ませています。これは地元有志が、15年以降は、ひまわりから、開花期間の長いコスモスに植え替えました。お陰で、毎春秋になると、コスモスが歩道を彩り、ポイ捨てや不法投棄もすつかりなくなりまし

## 町会行事に参加して

たのは、父親に「一緒に参加しないか」と誘われたことが始

### 触れ合いを広げる場に

私(工藤 靖子)が町会の行事に参加するようになったのは、父に誘われたことが始まりでした。スポーツ大会に参加して、中・高の部活でソフトボールをしていた経験が生かされ、つこともできました。また、ふだん道で会ってもお互いに挨拶や話ができて、コミュニケーションをとることができるようになりました。今ではよい触れ合いの場がもたら、と自分から進んで町会の行事に参加しています。



ソフトボール大会で活躍した工藤靖子さん。

## 美化運動

### みんなで協力し推進しよう

## 感謝のメッセージ

「ゴミ収集担当の皆様へ いつもきれいにしてくださり、ありがとうございます。このたび、転居することになりました。張り紙で恐縮ですが、ご挨拶させていただきます。ゴミ収集車の音楽が聞こえるたびに、2歳になる息子が喜んで窓からのぞいており、親子共々楽しみにしていました。本当にありがとうございました。収集担当の方が、毎日、手を振ってくださり、うれしかったです。これからも街をきれいにしてくださるお仕事に頑張ってください。」

本年3月下旬、心を和ませてくれる、こんな「張り紙」があるマンションのゴミ収集所に添付されていました。「とても勇気づけられるメッセージで、私どもにとっても大きな励みになります。」こう語るのは中原生活環境事業所の原新次所長。更に、同所長は、「4月1日から、当地域の普通ごみの収集は『月・水・金曜』の週3日、また、資源物の収集は『土曜』の週1日が変わっています。なお、年末年始を除いて、祝祭日も収集を行っていますので、美化推進のため、住民の皆さまのご協力をお願いします」と呼び掛けています。私たちは、新ルールを遵守すると共に、自宅周辺を常々清潔にし、町会の年4回の「美化運動の日」にも、すすんで参加し、みんなで協力して清潔できれいな街づくりを推進していきたいものです。

## グランアルト武蔵新城の皆さま ようこそ! 私たちの町会へー町会あげて心より歓迎いたします

私たち大ヶ谷戸小田中町会は、戦後10年目に廃墟から立ち直り、自分の生き方や自分たちの街を見直そうとして町会が誕生しました。そして、平成16年に50周年を迎えた伝統のある町会です。それにしても、「自分は自分、人は人」といった風潮の中にあつて、グランアルトの皆さまが、この地域の良さを知り、町会に入会を希望されたことは、「すばらしい決断だ」と心から敬意を表し、町会あげて歓迎いたします。どうぞ町会に加入された精神を存分に発揮され、共に協力し合つて、住みよい街・平和で安全な美しい街づくりに励んでいきましょう。



グランアルト武蔵新城 理事長 山田利行

また、リタイヤされる住民も年々多くなるなかで、地域の歴史を持つ町会の一員としての一員としての活動の場がなくては、マンション生活は単なる「寝起きの場となつてしまふ」とも思えたのです。さらに重要なことは、大規模災害が発生した場合、現在のよう単一生活集団では、何もできない現実があります。阪神淡路大震災や能登半島の地震などの例からみても地域の連携がいかに大切であるかを思い知らされました。子・孫世代まで地域と共に! 独自の自治会も意味があり、しかし単に組織を作つては、これからの皆さまのご指導ご鞭撻をお願いいたします。そして、新たにグランアルト武蔵新城のマンション200世帯超の方々が、私たちの町会に入会されたことです。まさに新たな歴史を開く画期的な一ページといえます。古い伝統をもつ大ヶ谷戸小田中町会に斬新な発想と知恵を生かしていただき、より一層住みよい街に進展することを願っています。

また、近くには多摩川や二ヶ領用水があり、四季を通じて私たちの生活に潤いをもたらしてくれます。更に、交通・買い物等の利便性も優れており、子ども・孫世代にも「当地域の住民である」ことが誇れるような環境づくりに努力していきたいと思つています。

## 編集後記

★プロフィール★  
グランアルト武蔵新城は今年で6年目を迎えます。現在200世帯超が生活しています。住民の多くは、30、40歳代の働き盛りですが、小さい子どもさんから、第一線を退いた世代まで幅広い住民で構成されています。  
地域連携の必要性を痛感  
マンション誕生以来、独自の自治会組織誕生をめざして進めてきました。  
しかし、現状は多くの子どもが地域の小中学校に通っており、親の意識とは別に地域に根ざし始めている事実があり、地域の祭りへの参加や、さまざまな行事への参加を通して、多くの思い出を作っている環境があることは、子どもにとって大切なことと考えています。

(M・I)